

オーディオ実験室収載

FIDATA HFAS1-S10 の活用(10) —SWD-DA20 への USB 入力(2)—

1. はじめに

[前報\(9\)](#)に引き続き、HFAS1-S10 から SWD-DA20 への USB 入力を、音源を替えて試聴します。

2. HFAS1-S10 と SWD-DA20 の試聴条件

再生ルートは次のようになります。

HFAS1-S10→iPurifier2 (TypeB) →SWD-DA20

音源として今回は HFAS1-S10 にインストール済の 5.6MHzDSD 音源を使用します。なお、SWD-DA20 の電源には iPurifierDC を介在させ、USB ラインには iPurifier2 (TypeB) を挿入し、USB ケーブルは USB リベルメンテを使用します。SWD-DA20 に DSD 再生の場合に GPS-777 からメーカー指定の 174KHz の外部クロックを入力して、その効果を確認します。外部クロック入力を外し、SRC 機能で 11.2MHz へのアップサンプリングも実施しました。

また、これまで使用してきた micro iDSD との比較試聴も行います。

HFAS1-S10→iPurifier2 (TypeA) →micro iDSD

3. HFAS1-S10 と SWD-DA20 の試聴結果

HFAS1-S10 からの 5.6MHzDSD 音源の再生は外部クロック無しでも、従来の PC オーディオでの再生に比べれば随分印象が違っています。外部クロック無しの状態で SRC 機能で 11.2MHz へのアップサンプリングをしますとリアルさが向上します。

GPS-777 からメーカー指定の 174KHz の外部クロックを入力し、5.6MHzDSD 音源のまま再生しますと、音の緻密さや繊細感が増し、外部クロック無しでの SRC 機能で 11.2MHz へのアップサンプリングより、こちらの方が好みにあっています。

HFAS1-S10 への外部入力クロック有りの状態で micro iDSD との比較では、後者は前者の繊細感や音の密度が後退し、改めて GPS-777 からのクロック入力の威力を感じました。

なお、micro iDSD の場合、ほとんどが TASCAM DA-3000 で録音した曲で、例外なく停止の場合、ぶちつという大きなノイズが入ることがあります。しかし、SWD-DA20 では、それがほとんど気にならない程度になります。

4. まとめ

5.6MHzDSD音源のHFAS1-S10からの再生のクオリティの良さとSWD-DA20への外部クロック入力の効果が確認できました。

以上